

⑬ 日本国特許庁 (JP)

⑪ 特許出願公開

⑫ 公開特許公報 (A)

昭59—134170

⑤ Int. Cl.³
B 65 D 83/00

識別記号

庁内整理番号
7617—3E

⑬ 公開 昭和59年(1984)8月1日

発明の数 1
審査請求 未請求

(全 3 頁)

⑭ 押しつぶし式液体分配容器

① 特 願 昭58—15

② 出 願 昭58(1983)1月4日

⑦ 発 明 者 アンソニー・ダグラス・ジャツクマン
英国サリー・ウォーキング・ヒ

ル・ビュー・ロード・ラドンス
トーン・コート12

① 出 願 人 ベテイツクス・リミテッド
英国サリー・ニュー・マルデン
・ダンバー・ロード (番地なし)

⑦ 代 理 人 弁理士 曾我道照

明 細 書

1 発明の名称

押しつぶし式液体分配容器

2 特許請求の範囲

- 1 液体保持びん(1)と、測定及び分配用入れ物(6)と、びん(1)の底部近くから入れ物(6)まで延びている導管(2)とを有しており、全容器が弾性的にたわみ可能な材料から一体に成形されており、これによつて、びん、入れ物及び導管が一定の場所的な相互関係を有して完全体を形成するようにしたことを特徴とする押しつぶし式液体分配容器。
- 2 入れ物(6)及び導管(2)が対向された且つ相互に溶接された材料によつて形成されており、導管(2)はびん(1)の底部の近くにおいてびん(1)の壁を貫いて入口(3)から入れ物(6)の壁を貫いて開口する出口(7)まで延びており、また導管(2)は容器の堅い側壁を形成している特許請求の範囲第1項記載の押しつぶし式液体分配容器。

3 発明の詳細な説明

本発明は、液体を保持する変形可能なびんと、分配する入れ物と、びんから入れ物まで延びている導管とから成立っており、これによつて、びんの容積を減少させるためにびんの押しつぶしによつて、液体がびんから、入れ物の中へ導管を介して絞り出されることができるようになつている押しつぶし式びん形の液体分配容器に関するものである。

本発明によると、液体保持びんと、測定及び分配用入れ物と、びんの底部の近くから入れ物まで延びている導管とを有している押しつぶし式の液体分配容器は、弾性的にたわみ可能な材料から一体に成形されており、これによつて、びん、入れ物及び導管が固定の位置的な相互関係を一路に有して完全体を形成するようにしている。

容器を完全体として成形することによつて、別個の導管を製造し、差し込み及び固着する費用又は組合わされた導管及び容器が節減される。

だけではなく、導管の位置及び入口並びに出口レベルが、容器の製造においていつべんに且つすべてに対して決定される。このことは、導管の出口レベルが分配される量を決定する場合に、分配される量を測定する際における不確実さを避け、また、若しも、導管が実質的に変位され又は失われたならば、使用不能となることを避ける。

好適には、容器は、ポリエチレン又はポリプロピレンのような熱可塑性材料から、吹込み成形法によつて、材料の対向される且つ相互に溶接される部分によつて入れ物及び導管を形成し、~~容器及び導管を形成するよう成形され、導管は外部を上方に容器の堅い側壁として、びんの底部に近くにおいてびんの壁を貫いて入口から、入れ物の壁を貫く出口開口まで延びている。~~

向き合わされ且つ相互に溶接される材料部分は、好適には、堅いウェブであり、これらのウェブは、容器の横断面の主要な中央平面内に横

体に成形された出口 γ によつて開口している。

第2図には、ウェブ δ 及び ϵ が2個の別個の層から成立っているものとして示されているが、しかしながら、これは単に例示の目的のためであり、ウェブの中の成形された材料は、実際には、均質に相互に溶接されている。成形工具の接合面に沿う鋳型の別かれ面は、第2図に破線X-Xによつて示されている。

びん β は、閉塞キャップ α に対して、ねじ山を設けられた首 δ を成形されており、また、入れ物 δ は、同様に、首 β を有しており、その口を閉塞するためにキャップ β を有している。入れ物 δ の壁は、目盛表示 γ を有して成形されているものとして示されており、分配されるべき液体の与えられる容積を指示するようにしている。全部の容器の材料は、透明又は半透明である。

容器は、使用者に、びん β を分配されるべき液を充てんされて供給され、又は、首 δ を介して充てんされ、又は、再充てんされることがで

たわる。

以下、本発明をその1実施例を示す添付図面に基づいて説明する。

図示された容器は、公知の吹込み成形技術によつて作られるが、この技術においては、熱可塑性材料の管状のバリソンが押出され、それから、1対のダイの間において押圧されている間に膨張し、対向される壁部分を容器入れ物及び導管の中空形状の回りに相互に溶接し、要求される全体の形状に対して何らかの過剰な材料を切放す。

図示されるように、容器は、導管 γ と一体に成形されたびん β から成立っているが、この導管 γ は、底部の入口 α から上方に外方にびん β に沿つて延びており、また、ウェブ部分 δ 及び ϵ を形成するように相互に溶接され、平らにされた容器の対向する壁部分によつて形成されており、また、これらのウェブ部 δ 及び ϵ は同様に、分配入れ物 δ を形成しており、更に、導管 γ は、この入れ物 δ の中に、容器の肩の上に一

き、また、入れ物 δ から全量を分配するように次のようにして使用されることもできる。

入れ物 δ のキャップ β を除去又は緩め、容器のキャップ α が緊密に閉塞されていることを確かめた後、びん β は、押しつぶされ、その容積を減少させ、導管 γ を越えて入れ物 δ の中に、液体が導管出口 γ が浸漬されることが見られるまで、導管 γ を通して液体を絞り出す。

押しつぶしを解放すると、びん β はその容積を回復し、液体は導管 γ を越えて入れ物 δ 内の液体のレベルが、液体ではなく、空気が吸込まれる。出口 γ を経て、出口 γ にまで減少されるまでもどるよう吸引される。

キャップ β が取り去られた後、測定された量の液体が、入れ物 δ から注出される。

思慮分別のある押しつぶしによつて、目盛表示 γ に対して見られるように全測定量よりも、より少ない量が分配されることもできる。また、若しも、液体がびん β の中に適当に低いレベルにあるならば、キャップ α 及び β が緩められ

て、液体は入れ物6からびん1へ、液体が導管2を経てもどつて流れるように傾けることによつて、もどされることができる。

「図面の簡単な説明

第1図は本発明による容器の正面図、第2図は第1図の線II-IIによる横断面図である。

1・・・保持びん；2・・・導管；6・・・入れ物；

特許出願人代理人 曾 我 道 照

